

ご あ い さ つ

愛知県高等学校視聴覚教育研究協議会会長
愛知県立犬山南高等学校長
森 也 寸 司

会員校の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素より本研究協議会の活動に、格別のご支援ならびにご協力を賜わりまして、厚くお礼申し上げます。

私は、前任の大谷宜生会長の後を受け、令和2年4月に本会の会長に就任いたしました。早いもので1年が過ぎましたが、会員校の皆様方のご尽力のおかげをもちまして、本会の運営を何とか成し遂げることができました。ありがとうございました。

「本会の運営を成し遂げた」と申し上げましたが、これまでと比較し、令和2年度は大きく異なった対応を余儀なくされた1年でもありました。新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るった影響により学校は臨時休業となり、「主役の生徒がない」という異常な状態がしばらく続きました。また、学校再開後も第2波・第3波と、一度収まったかに見えた感染が、次々と私たちの日常生活に襲い掛かってきました。このため、学校における教育活動は長きにわたり大きな制約を受けざるを得ず、生徒のみならず教員も含め、非常に息苦しい毎日を過ごすことになりました。こうした状況を踏まえ、本研究協議会においても予定した会議や大会等は、結果としてそのほとんどを中止することとなりました。しかしながら、感染状況が落ち着き実施可能となった場合に備え、あるいは実施方法を見直し、その時々状況にあった方法で対応しようと、多くの皆様方が限られた時間の中で動いてくださいました。

さて、令和4年度から新しい学習指導要領に則った教育活動を実施するに当たり、各校においては様々な準備や、実施に向けての検討・研修が行われていることと思います。ここでは、生徒を活動の主体として位置付けるのみならず、認識の主体として捉え、授業をはじめとする教育活動を展開する必要があります。また、BYOD・CYODという考え方を前に、端末の整備はもちろんのこと、それ授業等にいてどう活用するのか、使用する際の規定をどのような内容にするのか等、多くの課題が出てきます。さらに、ICT機器を用いて円滑に教育活動を展開するために、分掌等の組織の在り方を見直す必要もあるかもしれません。私たちは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって、ICT機器やオンラインがもつ特長に目を向けることになりました。これを踏まえ、生徒と共に、より主体的でより対話的な学びをどう創るか、それが本当に深い学びとなっているかを含め、令和3年度は、これまで以上に教員のチャレンジが必要となる1年になりそうです。

この「視聴覚のあゆみ」は、令和2年度の本研究協議会の活動をまとめたものです。令和3年度において皆様方が実践する教育活動の一助になれば幸いです。

最後に、本研究活動を企画し運営された皆様をはじめ、多くの関係の皆様を重ねて感謝申し上げます、ごあいさつといたします。